

フェアウインドきの 施設季刊誌

FairWind

2025
Spring



特集

スタッフ育成のとりくみ

- 高瀬療養部長に聞く～よりよいケアを目指して
- 年度末研究発表
- 実習養成校の先生に聞く
- 25年度の施設方針

スタッフ育成のとりくみ

高瀬部長に聞く、スタッフ教育最前線

療養部長
高瀬智佳子
Chikako Takase

より良いケアを目指して

新型コロナウイルス感染症の影響で、働き方は大きく変化しました。当施設でも、Web研修の導入など、新たな教育体制への移行を余儀なくされました。あれから5年。いかに現場で活かし、スタッフ一人ひとりの成長につなげるか。高瀬療養部長に、これまでの取り組みと今後の展望についてお話を伺いました。

WEB研修の導入と現状

Special
Interview

Fairwind
Kino 25'

インタビュー（以下小松）…まずは、教育の取り組みと現状についてお聞かせください。

高瀬療養部長（以下高瀬）…私が療養部長に就任して5年が経ちます。ちょうどコロナ禍に入った頃です。そのため、月に1度開催していた施設内研修はWEBを使った研修に切り替えることにしました。現在もWEB研修形式で実施しており、教育委員会が内容検討、設問設定、受講確認を行っていただきます。毎年度末には、各部署による研究発表会も実施しています。

小松…WEBでの研修は、いち早く活用でき、良かったと思います。

【2024年度 施設内web研修内容】

- 4月 個人情報とプライバシー保護
- 5月 2024年度施設事業計画
- 6月 KYT危険予知トレーニング
- 7月 もっと深く知ろう!!接触感染予防策3つのポイント
- 8月 人権擁護と身体拘束 権利擁護の重要性
- 9月 呼吸困難とは？観察と対応のポイント
- 10月 介護職員のための「接遇」・アンダーマネジメントの考え方
- 11月 高齢者がなりやすい尿路感染症の原因や症状、予防法
- 12月 リスクマネジメント 事例検討
- 1月 マイコプラズマ肺炎 ノロウイルス対策と吐物処理
- 2月 身体拘束の廃止
- 3月 2024年度 研究発表

高瀬..しかし、WEB研修が中心となると、内容の活用という面では課題が残ります。

知識・技術の定着に向けて

小松..活用という面では、どのようにすれば良いと思われませんか？

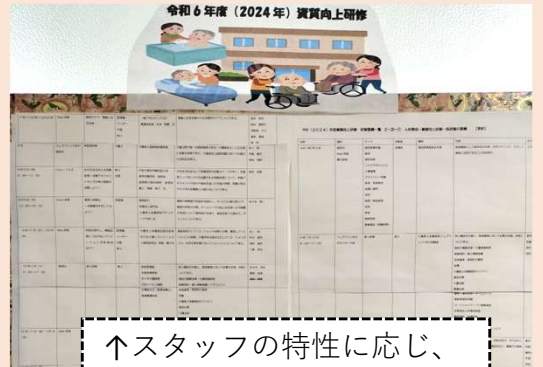


高瀬..WEB研修の中には、スタッフが独自で作成したものがあります。例えば、看護師がカウンセクニックの実施方法を説明したり、リスク委員会が危険予知トレーニング、排せつ褥瘡委員会が学習用動画を作成したり。自分たちで作った動画は活用しやすい印象があります。また、各部署での伝達講習なども積極的に行う必要があると感じています。

小松..知識・技術を定着させるために、重要な視点は何でしょうか？

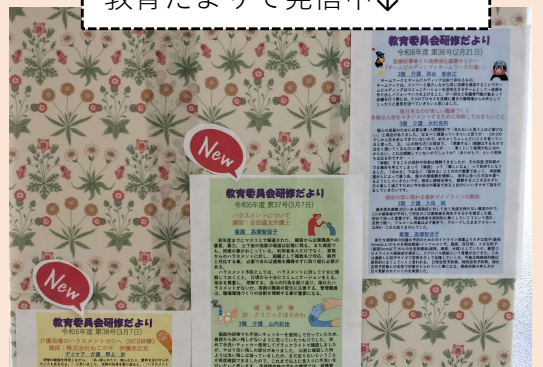
高瀬..今ある資源や環境を活用する必要があります。思います。当施設の現状に合ったものでこそ定着するので、知識・技術を現状に合わせて実施と再評価を繰り返すことが重要です。

掲示板的活用



↑スタッフの特性に応じ、年間教育計画を掲示

受講した研修内容を教育だよりで発信中↓



接遇力向上にむけて

小松..教育面での現状で、他に感じていることはありますか？

高瀬..接遇面です。ご家族からさまざまな意見が寄せられていきます。賞賛もあれば、苦情もあります。接遇は、単に挨拶や言葉遣いに限るものではなく、認知症の方への関わり方、人権擁護に対する心構えも含まれます。今後は、グループワークやロールプレイなどを通じて、学習していく必要があると考えています。

小松..確かに、座学だけでは成長は難しいでしょうね。昨年からは施設内での集合研修を再開したところなので、さらに進めていきたいところですね。



高瀬.. 対利用者様への接遇だけでなく、スタッフ間の接遇も必要だと思えます。お互いの良い場面を評価するキャンペーンなどを実施し、日常を可視化して振り返るのも良いかと思えます。

特性を生かす教育

小松.. 面白そうですね。研修計画を考える上で、重視していることはありますか？

高瀬.. 人の特性を生かしたいですね。新人、中堅、ベテランといった層に合った研修も必要です。また、全スタッフの特性を把握しきれていないので、キャリアアップアンケートにも取り組んでいます。

求める人材像

小松.. 最後に、部長がどのような力をスタッフに必要とされているか教えてください。

高瀬.. 前向きに考える力だと思えます。すべてが順風満帆にいくことはなかなかありません。うまくいかなかったときの修正力、物事に誠実に向き合う姿勢が必要です。調整する力が大切だと考えています。

小松.. 本日はありがとうございました。



高瀬智佳子（看護師：療養部長）

一般急性期病棟などを経験後、いわくら病院 副看護部長を歴任、2020年当施設療養部長に就任



インタビューー：

リハビリテーション科 課長 小松 颯 (作業療法士)

WEB研修の一例

褥瘡マネジメント加算



1) 褥瘡の主な発生要因を4つ挙げてください。*

回答を入力

2) 入所の翌月に褥瘡が発生した場合、どちらの加算を算定するでしょうか？*

- 褥瘡マネジメント加算Ⅰ
- 褥瘡マネジメント加算Ⅱ

👉 Google フォームを使用したWeb研修の画面例
動画視聴の後、設問に答えて理解度を確認

今年度は集合研修による演習を増やす予定です！

ガウンテクニック 着衣編

- 手指消毒
- 手袋（インナー）
- ガウン
- キャップ
- マスク
- フェイスシールド
- 手袋（アウトター）



👉 看護師作成のガウンテクニック動画
施設備品を使用して意思統一しました



👉 ナーセントパットやタオルを用意

👉 リスク委員会作成の危険予測研修
座位姿勢についての解説も実施

2階 ケア

生活自立支援

～職員と利用者様との関わり寄り添い～



生活の質向上を目的に、カフェ・園芸・ハンドベル活動を実施し、対人交流や意欲の向上へ繋がりました。ご家族アンケートを通じ、面会方法の改善にも取り組み、アセスメントと個別支援の重要性を再確認しました。

リハ ビリ

地域事業所へむけた 加算説明会の実施報告

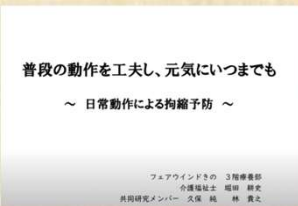


24年6月に地域事業所のケアマネジャーを中心に報酬改定後の加算説明会を開催しました。結果から、当事業所にさらなる連携力や専門性の発揮、短時間デイへの期待が高いことがわかりました。

3階 ケア

普段の動作を工夫し、 元気にいつまでも

～日常動作による拘縮予防～

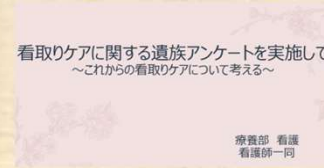


拘縮予防によって日常を快適に過ごし、自立へつなげる取り組みを実施。日常生活の動作反復で実施した結果、現状維持は可能ながらも、利用者様が効果実感するには課題も残りました。

看護

看取りケアに関する遺族 アンケートを実施して

～これからの看取りケアについて考える～



看取りケアについて、アンケート調査を行いました。その結果、「最期は自分らしい場所で自分らしいケアを選択し受けられること」を支援する必要があると感じました。

デイ I

きのトレのとりくみ



午後のプログラムとして40分間の機能トレーニング「きのトレ」を実施中。腰痛予防など多くの方の悩みをテーマにしたことで、利用者様が興味を持って取り組んでいただけようになりました。

デイ II

通所リハビリにおける 終末期支援

～最期までデイケアに通いたい～



「最期までデイケアに通いたい」というご本人の願いと、ご家族の思いをうけ、多職種協働での支援方法を報告。体調への配慮のみならず、想いに寄り添い支援していくことの大切さを感じました。

事務 栄養

最期まで 口から食べる食支援



管理栄養士2名が中心となり食事観察を実施。低栄養状態の予防や、咀嚼・嚥下機能が衰えた方への献立作り、おやつレクなど、いつまでも食事を楽しめるようなどりくみについて報告。

★研究発表会

- 部署ごとで演題発表
- 年間のとりくみや事例を発表
- 2020年からWeb上で実施
- スタッフ評価によって優秀賞が決まります

特集3

養成校の先生に聞く

「生活の場」での看護を

京都先端科学大学 健康医療学部
看護学科 中尾奈歩 先生



「今回の実習について教えてください。」

これまで3日間程度の見学実習で大変お世話になっていました。今回は「高齢者看護学実習」として約2週間にわたり、アセスメント、看護計画の立案・実践、評価までを行う実習です。

「病院実習との違いはありますか？」

今年度から初めて介護施設での実習がスタートしました。病院実習では検査データに基づいたプロセスが重視されますが、介護領域では「生活の場での看護」を経験してもらいたいと考えています。

「介護分野で活躍する看護師を増やしてもらえたら…」

キャリア教育の一環として、当学科では「地域包括ケア実践プロジェクト」という授業をしています。多様な看護実践を体験し、一年次より保育園や消防署など、地域で活躍する看護現場での実習をしてきました。卒業生の大半は病院勤務を希望しますが、次のキャリアとして、生活の場での看護をめざしてほしいと思います。



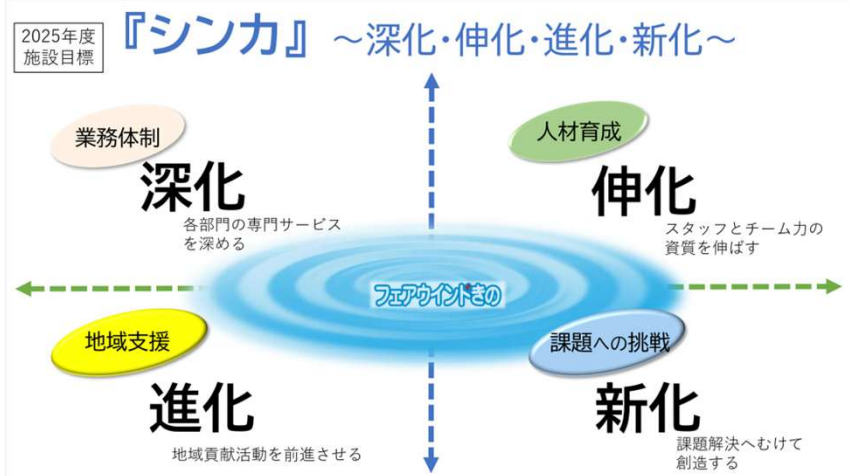
貴重な時間をいただきました！



特集4

25年度施設目標『シンカ』

池本施設長より



施設目標のイラスト

昨年度は「新しいスタート」を目標として、保険制度改定への対応や、地域や家族との交流など、新しいとりにくみを行いました。

今年度の目標は「シンカ」です。昨年引き続き、4つの柱を軸として、①各部門の専門性を追及する深化、②スタッフ育成としての伸化、③地域支援を前進させる進化、④業務課題の解決へむけた創造性のある新化をめざしたいと思います。

Our Direction
Fairwind
Kino 25'



3階で家族会を開催

1月20日（月）に3階ご利用者様の家族会を開催いたしました。総勢27名のご家族に参加いただきました。

フロアの説明や日々の様子を動画で上映会、さらにご一緒に茶話会を開きました。いつもとは違った笑顔と涙であふれていました。

足を運んでいただいたご家族の皆様、本当にありがとうございました！



持ち込み食へのご協力をお願いします

面会時に食べもの持ち込みについて、誤嚥や感染予防のため、以下の基準をお守りいただくようお願いいたします。

- ① 「生もの」「ご自宅で調理された食品」はご遠慮下さい。（カット処理も含む）
- ② 「高齢者が誤嚥・窒息しやすい食品」は控えてください。（おはぎ、もち、飴、ナッツ等）
- ③ 他入居者様へ「おすそ分け」はできません。
- ④ 極力「個包装」になっているもの。
- ⑤ 「食べきれる量」でお願いします。

【新人スタッフ紹介】



療養部2階介護
村井 雄一

1月からお世話になっております。自分自身がこうしてもらえば嬉しいと感じれるような介護ができたと思います。モニタリングの透明カラオケボックスに出るのが夢です。趣味はパワースポット巡り、脱毛、音楽（米米CLUB）です。



療養部3階介護
水島 大輔

中途採用で1月から入職しました水島と申します。3人の子供がおり、日々振り回されています。老健に勤めるのは初めてで分からないことがたくさんありますが、先輩方に丁寧にご指導いただき、また利用者様方に温かく接していただき、楽しく働かせていただいています。

フェアウインドきの

2025年度
施設広報誌第75号

〒606-0015
京都市左京区岩倉幡枝町2250
TEL /075-712-5252
FAX/075-712-5270
Mail/fairwind@able.ocn.ne.jp
発行：フェアウインドきの広報係

